

令和7年1月19日

那賀医師会 会員各位

那賀医師会

地域医療担当理事 田中 賢

令和7年度 第7回公立那賀病院との合同勉強会のご案内

公立那賀病院との合同勉強会を下記のとおり行います。ご多忙中とは存じますが、多数のご参加をお願い致します。

記

日時：令和8年2月12日（木）午後4時から

場所：公立那賀病院 北別館 1階講義室

演者：公立那賀病院 乳腺・呼吸器外科 平井 一成 先生

演題：「非小細胞肺がんの周術期治療」

抄録：

非小細胞肺がんの治療と予後は分子標的薬(TKI)や免疫チェックポイント阻害剤(ICI)の登場によって劇的に改善しています。しかしながら腫瘍を「治癒を目指す」最も強力な方法は未だに外科的切除です。切除可能か否かは肺がんの予後を大きく左右しますが、切除できても治癒の可能性が高いのはI期のみで、5年生存率はII期では5割をようやく超える程度、IIIA期では（conventionalな術後補助化学療法を行っても）4割に満たない程度です。ところが手術適応のないIIIB期で何と5生率4割を超える治療法(PACIFIC regimen)が開発されて、IIIAとIIIBで予後が逆転すると言うことが起きました。進行がん手術はもう意味がないのではないかと考えたところで、手術+周術期にTKIやICIを用いて予後改善効果が期待できる治療が開発されつつあります。これまでの補助療法と比較して無病生存期間のハザード比が0.2と言う画期的な治療(ADAURA)もあります。特に今トレンドとなっているのは「切除可能な」局所進行がんの術前後に化学療法とICIを併用する治療で、II期・III期の手術に必須となって行くと思われます。が、病状と腫瘍の遺伝子的特徴によって薬剤、投与法、投与時期が様々で複雑です。この機会にみなさまと一緒に周術治療の歴史もひもときながら整理してみたいと思います。

※この勉強会は日本医師会生涯教育講座：1単位

カリキュラムコード：（73）を申請中です。

※お手数ですが、B会員の先生方にもご案内下さいますようお願い致します。